

【ねがいましては】

平成18年6月26日

第189号

KYOWA SCHOOL

「くすぐり」

先日、某TV局で「教員の途中退職」についての番組が放映されていました。定年を迎えることなく、学校を退職された方々のお話に耳を傾けていました。車の運転中のことでしたので、耳での視聴になりましたが、総体的には、生徒や父母間との気持ちのギャップが教員のストレスを増幅させ、退職へ結びつかせたように感じました。その要因はさまざまなものがあると思われますが、これは専門家の方々に分析いただき、対処していただくことにして、ひとつ共通しているなど感じたことは、『まじめすぎる』かな・・・と思ったのです。『まじめ』は当然良いことなのですが、結果に対して責任感が強すぎるあまり身動きができなくなる・・・。もっともっと人間的で良いのではないかと思いつつながら運転していました。

子どもたちには溢れるほどの『思いやり』があると、私は自負しています。弱いものを見たときの彼らの表情は、だまって『助けてい』というものです。まだまだ未熟だけれども、自分にできることがあれば進んで助けてあげたいと、彼らはいつも思っているのです。先生、子どもたちに助けてもらっていますか・・・。

地元の中学校の定期試験が近づき、くりたのランチ講習のあるひと時、わりざんの基礎のプリントを行ないました。17÷4=4…1 などのように算数計算の基礎分野をヨーイドンで行ないます。Cちゃんは中学1年のときからの生徒で、とても感受性の強い子です。小学校時代から勉強は苦手のように、学校ではかなり劣等感を抱きながら生活していたようです。本来私は勉強面で競争させるのは好きでなく、口癖のように「精一杯が100点だよ」は、子どもたちの中の私の共通項になっています。しかしゲーム感覚でできるものに関しては「楽しむ」という観点から行なったりもしています。で、そのプリントを「ヨーイドン」・・・Cちゃん珍しくどこかでつまづいたのでしょうか。前回よりも3分以上もオーバーして終了しました。そしてしくしくと泣き始めました。私は即座に彼女の胸中を察し、「自分に負けて悔しいんだね。」「うん・・・。」

「さて、アドバイスするよ。Cちゃんのその気持ちはとても大切、でもそのままでは何も変わらないよ。で、すぐ動くことだね。『先生、練習したいからプリントくれませんか、ってね!』そして次のために自分を伸ばしておくんだよ。泣いているだけなら今までのCちゃんのまま、泣いてもすぐ動けるなら成長したCちゃんだよ。」

私は遠慮なく涙を流せるCちゃんは、安心しているのだなと感じていました。ホッとできるとき、心が澄んでいる。大きく深呼吸して砂浜に座り、大海原を眺めているときのような澄んだ気持ち・・・。そういう時って、なぜかきれいな涙を流せるんですよ。

そして数日後、「きょうは、中学生の人たちがテストのための勉強に来ています。みんなも協力してくださいね。」という私のお願いのもと、そろばんの時間帯、小学生、中学生入り乱れての授業が始まりました。ここでは試験前、自分の意思で勉強したい人は早く来てもいいよということになっています。「自分歩き」です。

そんな中、勉強中のCちゃんに私は頼みます。「Cちゃん、小学2年のNちゃんと一緒に『九九』しゃべってくれない?」「はい!」元気な声が返ってきます。楽しそうにニコニコしながら二人が唱えています。小2のNちゃんには優しいお姉さんと一緒に九九をしゃべったことへの温かい思い出が宿ります。もちろんCちゃんには自分の勉強を中断してでも、こんな私だって勉強のお手伝いができるんだ。という気概を感じてくれたと思います。そのときの私にはできないことを彼女はしてくれたのです。「みんなみんな助け合ひだよ。助け合って大きくなってゆくんだよ。」と、私はここで叫びます。

この心のふれあいが、子どもたちを大きく成長させます。

この何気ない『くすぐり』が、教室の中の空気を一気に明るくしてくれます。その光景を見るのがたまらなくうれしいのです。これをお読みいただいているご父母の方々に、ぜひともごらんいただきたい光景なのです。『あったかい』その一言です。そのあったかい風に包まれながら、子どもたちはそれぞれ机に向かいます。

そして翌授業日、「先生、数学先に進みたいんです。教えてください。」という元気なCちゃんからの勉強宣言です。瞳がらんと輝いています。あれほど嫌いだった算数の文章問題に自分から向かおうとしています。連立方程式の文章問題です。この分野は計算は数学的なのですが、文章問題は小学校算数の延長線上なのです。「よーし、やってやるぞ」という彼女の前向きな気持ちが手にとるように分かります。ただただ、うれしいです。

自分から動くことの喜びをつかんだようです。本当の勉強に気がついたようです。そして私の夢見る、『理想の学校』の生徒が、またひとり生まれたような気がいたしました。Cちゃんありがとう。

わけあって退職された先生方、こんな教室ですけど、義務教育も教育委員会もぜんぜん縁がないような教室なのですが、子どもたちも、その子たちを送り出しているご父母の方々も温かい方々ばかりです。ぜひ覗いてみてください。

夏休みの予定は、7月初旬にお渡しいたします。